



代表の岡本聡子さん。

の直前まで、トンテンカンと改修で大騒ぎだったので、近所の人は注目していたのでしようね。まだ木がうつそうとしていて怪しげで、入ってくるのにかなり勇気がいるような家でしたが、そのチラシを持って来てくれた人がいました。1回来たら次には知り合いも連れて来てくれて、利用者が徐々に広がっていったのです。あまりに物が無いから見かねて、『百均で子どもの椅子を買ってきた』とか、『おもちゃを持ってきた』とか、『ケーキを

焼いてきた』とか。改修もやることはまだ山のようにあったから、作業を通じて巻き込まれていったのです」

しかし、地域との関係はふらつとを利用する人たちだけではない。

「近くに住んでいる人たちは別に何かの活動をしてほしいわけではないということは、十分理解しておく必要があります。この点で私たちがさらにラッキーだったのは、この家が近隣に迷惑をかける空き家になりつつあったことです。近所の人たちは、オープンしたとたんに『うちまで草が突き破っている』とか『こっちも何とかしてくれ』と言いに来ました。気になってきた空き家をきれいにしたので、歓迎はされたと思います。『あの家をきれいにしてくれるなら、多少子どもの声が聞こえてもいい』と言う人もいましたから。

子どもの声へのクレームは開設当初から心配していたので、自治会とのおつきあいは大